



下関市立大学広報

平成23年度の入試広報

入試委員会委員長 大内 俊二 教授

本年度の入試広報活動では、平成23年4月に公共マネジメント学科が開設されること、広島試験会場の増設、この2点を周知させることに重点を置いております。

まず日常的な活動について紹介します。入試班および入試委員会の教職員が中心となり5月下旬から、東は大阪、西は鹿児島まで広範囲にわたる地域で開催される入試説明会等に積極的に参加しております。中国地方と九州地方については全県に赴いております。このような説明会で、本学の説明を熱心に聞いてくれる受験生や保護者・高校の先生たちとの出会いは、われわれにとって一服の清涼剤となります。またこちらから出向くとは逆に、本学をご訪問くださる進路指導の先生や高校生も少なくはありません。このような訪問もわれわれは歓迎しております。ここまでは入試委員会・入試班が単独で実施しているものですが、その他に広報委員会・高大連携委員会・経営企画班と連携して全学的に行っている活動もあります。具体的には、本学教員が高校に足を運んで行う新学科宣伝のための模擬授業や大学紹介のための出前授業、新学科を中心とした分かりやすい学科紹介のパンフレットや大学案内用のDVDの作成・配布、さらにTVや駅広告等のメディアを活用した本学の紹介などです。

上記のような日常的なものの他に、7月11日(日)・24日(土)の両日、本学で開催されたオープンキャンパスの全体説明や個別相談において入試説明を行いました。来場者は、下関市内の高校生147名のほか、遠くは鹿児島県からも6名の参加があり、総勢514名にのぼりました。入試説明会等でお目にかかった方やその友人等の参加者も少なからずありわれわれに元気を与えてくれました。アンケートに答えてくださった方には入試班員が考案し



ミニオープンキャンパス・全体説明

た市大グッズ(手鏡・ペンつきメモ帳)を配布しましたが、グッズの評判はとても良いものでした。また生協学生委員の訪問客へ対応は毎年のことながら好評でした。引き続き10月3日(日)、本学においてミニオープンキャンパスを開催いたしました。午前中の大雨また中間試験中の高校も多い中、109名の来場者を得ました。参加者のほとんどは本学受験を真剣に考えているようで、入試に関する具体的な話を聞きにくる生徒が跡を絶たず、個別相談担当者は嬉しい悲鳴をあげました。川野准教授の計らいで実施した公共マネジメント模擬授業も盛況でした。

最後に広島試験会場の宣伝をしたいと思います。入学試験はこれまで下関会場の他に地方4会場(大阪・高松・福岡・鹿児島)で実施してまいりましたが、平成23年度的一般入試(前期・公立大学中期)から、広島会場を増設することになりました。広島会場はJR広島駅および広島バスセンターからほど近い広島国際会議場になります。この会場の設置によって、鳥根県(浜田・松江地区)、鳥取県(米子地区)、岡山県(広島よりの地区)、愛知県(松山・今治地区)からの受験生の利便性が向上するものと考えます。これらの地域の方々には是非利用して頂きたいものです。

末筆になりましたがオープン・ミニオープンキャンパスにご来場下さった皆様、協力してくれた生協学生委員には心より御礼申し上げます。

平成23年度 入試情報

	推薦入学 全国推薦 / 地域推薦 (A・B)	特別選抜 帰国子女 / 社会人
試験会場	下関	
試験日	2010年11月20日(土)	
出願期間	2010年11月4日～11日 17時必着	
合格発表	2010年11月29日(月)	
	特別選抜 中国引揚者等子女	外国人留学生選抜
試験会場	下関	
試験日	2011年1月22日(土)	
出願期間	2010年11月24日～12月3日 17時必着	
合格発表	2011年1月28日(金)	
一般選抜		
	前期日程	公立大学中期日程
試験会場	下関・大阪・広島	下関・大阪・広島 高松・福岡・鹿児島
試験日	2011年2月25日(金)	2011年3月8日(火)
出願期間	2011年1月24日～2月2日 消印有効	
合格発表	2011年3月4日(金)	2011年3月21日(月)

※詳細は本学 HP、または募集要項をご覧ください。

市大生の国際活動

韓国短期留学に参加して

経済学科2年 渡邊 聡美

私は今回韓国への短期留学に参加して、普段の語学授業では得られない多くのことを経験することができました。外国に行くこと自体が初めてだった私はしばらくハングルばかりの町並みに慣れることができませんでしたが、慣れるとハングルが自然と頭に入るようになり、外を歩くのが楽しくなりました。私が生活することになった寄宿舎の前の通りには屋台が並び、連日夜遅くなっても若者からお年寄りまで多くの人が町を歩いていて、韓国の人は日本人よりエネルギッシュだなと思いました。

慶熙大学校で出会った先生や友達は優しい人ばかりで、皆日本語が上手く、授業以外の会話は相手に頼りきりになってしまいました。そのとき自分の気持ちを伝えたくても上手く伝えることができない自分の語学力の無さをもどかしく思い、今までよりも強く韓国語を学びたいと思いました。

留学する一番のメリットは、その国の人との実際の出会いによって、自分のスキルとしての語学学習を、誰かを対象とした有意義なものへと変化させることができることだと思います。



ソウル：ロッテワールドにて

「日本にいながら世界を知ろう!!」

国際交流センター長 田中 香織



自ら興味のある国々全てを訪問し暮らしてみることは不可能に近いことです。そこで国際交流センターでは「日本にいながら世界を知ろう!!」というイベントを企画しています。

世界各国の方々や各国を見聞してきた方々にその国の現状、歴史、文化、その地の人々の考え方などについてお話をいただき、プロジェクターやインターネット、スカイプを利用して現地の様子を知ることにより、世界各国について理解を深めています。「日本にいながら世界を知ろう!!」は、本学の学生や教職員はもちろん、地域の方々にも気軽に参加して頂ける講演会です。

春学期には3回実施しました。タイとトルコから本学に留学している学生の講演会、そしてアイルランドで写真家として活躍をし

ている下関出身の藤田需子さんのミニ写真展と講演会です。秋学期にも3回の実施を予定しています。内容は、協定校への留学や夏休み中の各国への外国研修を終えた学生達の留学体験発表会などです。「日本にいながら世界を知ろう!!」のご案内や実施報告を掲載している本学のホームページも訪ねてみてください。

あなたも「日本にいながら世界を知ろう!!」に参加して、「目から鱗」の海外生活を下関にいながら体験してみませんか。

世界の厨房から

国際交流会ともだち 部長 中山 亮介(国際商学科3年)

7月7日に行われた「世界の厨房から」では、留学生と国際交流会ともだちサークルの部員が協力して、留学生の郷土料理を作り来賓の方々に試食してもらいました。中国4班、韓国、トルコ、タイ、アメリカ、日本がそれぞれ1班の合計9班で料理を作りました。毎年行われている企画でしたが、今年は、梅光学院大学にいるアメリカからの留学生を2人呼び出してビッグスケールな企画にしました。開演の際の学長からの挨拶に始まり、国際交流会ともだちサークル部長挨拶を終えた後に来賓の方々に料理を試食していただきました。100人以上の料理を作ったにも関わらず、一時間もしないうちにどの料理も完食してしまいました。

時間も中盤にさしかかってくると、留学生と花柳流の日本舞踊がステージでありました。留学生達は一生懸命練習しており、演舞はとてもきれいでした。最後に学部長挨拶で締め終わりました。

今回の「世界の厨房から」を開催したことで、来賓の方々や部員が世界の料理を知ることができ、また、留学生と部員との親睦を深めることもできて、大変良かったと思いました。



国際インターンシップ視察

講師 浅野 雅樹

本学の国際インターンシップは国内で行われていたインターンシップに加えて、2年前から下関市と友好都市である中華人民共和国青島市で行われているものです。本年度は、夏休み期間の約2週間、青島にある三つの企業において実施されました。この度、私は参加した学生を視察、指導するという目的で、9月1日～9月3日までの間、青島市に滞在しました。この間、私は企業の方の御協力により、本学の学生が現地企業のオフィスで働いている様子を見学してもらいました。また私が訪問した際、企業の担当者の方には学生の状況だけでなく、日本の企業が外国で事業を展開することに関する意義や問題点を様々な角度から御教示いただきました。お忙しい中、御丁寧に対応していただき、心より感謝いたしております。

2日の夜は研修中の学生とミーティングを行い、参加している学生の声を聞くことができました。主に、このような国際インターンシップが行われる意義や効果について話し合いました。国内だけ



でなく国外で就業研修をすることは、ビジネスキャリアを積むことはもとより、異文化理解や学習している外国語の使用機会を得るといったメリットがあるという、私自身も含めた参加者全員の一致した意見が出ました。

その後、参加した学生は全員無事にインターンシップを修了することができたという報告を受けました。御協力いただきましたすべての方に、重ねて御礼申し上げます。

ラオスでの大学院海外実習報告

教授 櫻木 晋一

8月25日～30日にラオスで、大学院生森中紘一氏の海外実習を実施しました。森中氏は中・近世のラオス経済史を研究テーマにしており、現地の図書館や博物館などを訪問して関連資料の収集を行うとともに、私が専門とする貨幣史の研究指導および現地研究者に対する協力依頼を行ってきました。

日本からラオスへの直行便がないため、私はハノイ経由で首都ヴィエンチャンに入りましたが、高層ビルはほとんどなく、寺院や骨董店が多く、歴史的遺産に恵まれた街という印象を受けました。人々の性格も総体的に温厚でした。

当地で情報文化省文化遺産局やラオス大学社会科学学部などに出向き、ランサーン王朝時代(14～18世紀)の経済史研究に関する聞き取り調査を英語で行いました。とりわけ、貨幣史については現地の研究者にとっても不明な部分が多いと実感しました。ラオスは研究の面でも発展途上の国であり、日本をはじめとする諸外国の援助が必要であると思われる。

海外実習という大学院の科目は、海外での調査研究活動ができるので、多くの貴重な収穫があります。個人的には、今回の訪問成果が今後のラオス貨幣史研究の発展につながってくれることを期待しています。



文化遺産局副局長 Viengkeo 氏への聞き取り調査

基礎演習プレゼンテーション

基礎演習プレゼンテーションコンペが、昨年度の初の開催に続き、今年度も7月22日(木)に開催されました。昨年度は本学が取り組む教育プログラム「現代GP」の一環としての開催でしたが、今年度は現代GPの終了に伴い1年生対象のカリキュラム「基礎演習」における取組みの一つとして実施されました。3年生を中心とする2～4年生がボランティアのチューターとなって1年生

の基礎演習に加わり、コンペでの発表へ向けて1年生の指導・助言にあたり、コンペの運営も手がけました。コンペ当日には六つの基礎演習から十のプレゼンテーションが行われ、厳正なる審査の結果、浅野ゼミ2の「中国の食文化に学ぶ下関活性化への路」が最優秀賞に選ばれました。

プレゼンテーションコンペを通じての成長

国際商学科3年 北村 和広

1年生による基礎演習ゼミ対抗プレゼンテーションコンペ。チューターになった私たち3、4年生もよりよいプレゼンができるようにと意気込みます。

チューターの役割はアシスタントであり1年生の手助けをすることでしたが、私は彼らが自主的に計画を立て積極的に作業してくことが望ましいと考えていたので、極力手を出さないうつもりでした。それでもテーマ決定や役割分担などの作業が滞ってしまった場合1年生をリードしていくよう思案していましたが、その必要もありませんでした。

1年生は各々自分なりのテーマを決めており、そのためには何を調べどのように発表すれば効果的かという考え、アイデアが初期の段階からあったのです。

私たちが担当した浅野ゼミには中国からの留学生が多いので、日本人中国人それぞれの視点から考察することを狙い、中国に関するテーマを考えました。その結果、我々の身近で難しすぎない内容の食文化をテーマに設定することになりました。さらにただ食文化について調べるのではなく、その情報を下関に関連させようという提案があり、下関ブランドであるフグを中国に広めることで下関の経済発展を計るというプレゼンの主要部分が決定しました。そのテーマは「中国食文化に学ぶ下関活性化への活路」です。

最初はやはり発言が少なかったり、意見が出ない・まとまらないなどといったことが起こるのではないかと少し不安でした。しかし今年の1年生は自主性が高く、チームワークも良いため効率良く準備を進めることができていました。結局私はほとんど口を出さなまま話はトントン拍子に進み、情報収集、資料作成、発表練習を済ませ、準備期間内に余裕を持って完成させることができたのです。

プレゼンテーションコンペ本番ではしっかりとまとめられたものを披露することができ、そのプレゼンテーションの内容、発表態度共に立派なものでした。このプレゼン作成から発表までの様子を見て、私は1年生の学習意欲の高さに驚くと同時に、後輩の優秀さに感心してしまいました。

このプレゼンテーションコンペは私たち3、4年生にとっては指導力の向上につながるものであり、後輩たちには早い段階で力を発揮できる素晴らしいものであると感じました。このような場にチューターとして参加することができ、貴重な体験ができたことを喜ばしく思います。



就活情報

厳しい就職活動に向けて

キャリア委員会委員長 森 幸弘 教授

2008年秋のいわゆるリーマンショック以降、金融・経済状況の悪化により、雇用情勢が極めて厳しくなっており、2009年度の全国の大学における就職決定率は、1999年度の「就職氷河期」に次ぐ低さとなった。就職支援において内外から高い評価を得ている本学についても、厳しい結果となった。2010年度も、各大学とも、前年度以上に苦戦を強いられていることがメディアを通じて報じられている。最終的には、非製造業については前年度をさらに下回る採用数になるのではとの予測もある。

現3年生も、2年次春学期開講の「キャリアデザイン」、3年次春学期開講の「就職力開発」等のキャリア科目を履修し、10月には2011年度就職活動を本格的にスタートさせる。本学では、就職基礎講座、学内個別企業研究会、学内合同企業研究会、業界セミナー、公務員受験対策講座などの各種講座、研究会等が



用意されている。豊富な就職支援メニューを大いに活用し、就職戦線を勝ち抜いていくことを期待している。

就活を振り返って

日本放送協会(NHK)内定 経済学科4年 坂本 竜馬



功を奏したことは、早くから就活に意識を持っていたことでした。マスコミ業界に興味を持ち始めた1年生の頃、「就職しよう会」に入りました。先輩やキャリアセンターの生の情報に触れながら、自分なりに意識や行動を起こしていました。それでも実際の就活では、ライバル達に圧倒され苦戦が続きました。後輩の皆さん(学年を問わず)は、普段から仕事や人生を意識することが重要だと感じます。

例えば『大人と話すこと』。面接は大人との会話です。特に個人面接では、堅い話から雑談まで思っている以上に会話をします。そこでは約20年の人生が表れてしまうものです。皆さんは大学生活でどれほど大人と会話をしてきたでしょうか。面接の緊張感の中で、適切な言葉や態度で、表情豊かに、物怖じせず意見を述べることは、簡単ではありません。普段から大人と話す機会を意識してみてください。

『目的のための手段という考え方』。就活では、仕事や生き方など人生を考えます。就職は手段です。将来どうありたいのか、大学生の現時点での明確なビジョンがあると強いです。しかし明確でない人も多いと思います。私もそうでした。そんな時は、自分自身が世の中や、他人に対してどうありたいか考えてみてください。簡素な私の例を挙げると「人に心を動かすきっかけを提供し続けたい」、この目的を達成していく一つの手段がマスコミでした。就活や人生を考える一つの切り口として参考してみてください。

最後に、就職活動は人生において最も大きな分岐点と言っても過言ではありません。全力を尽くせば最善の進路を掴めると信じて挑んでください。

就活を振り返って

関西国際空港株式会社内定 国際商学科4年 三浦恵理子



私にとって、就職活動は、自分自身を見直し成長する良い機会でした。

本格的に就職活動を始めた10月から終わるまでの怒涛の数ヶ月は、本当にあっという間に過ぎていきました。まず、自分にはどんな職業が向いているのか、そして、自分自身何がしたいのかを見極める為に、説明会にはほぼ全て参加し、全く興味のない企業も、積極的に聞きに行きました。そして、2月・3月は数え切れないほどの履歴書やエントリーシートの締切に迫られる中で、選考も徐々に始まり、本当に苦しい時期でした。とにかく、少しでも興味のある企業は全て受け、できるだけ多くの企業の選考に参加しました。いろんな企業の面接を何回も受けることで、練習にもなります。数をこなしていくうちに、上手く受け答えができるようになり、笑顔できちんと言いたいことを伝えることができました。

就職活動は、思うように結果が出ず、本当に苦しいこともあります。でも、それは、みんな同じです。同じ苦しい経験をするのなら、最後は笑顔で終わりたいものです。今まで自分がやってきたことを信じて、どうか、最後まで諦めず、納得いくまでやりきってください。自信を持って前向きに取り組めば、きっと結果はついてきます。

就業力向上に繋がるインターンシップ

キャリア委員会副委員長 松本 義之 准教授

本学キャリアセンターでは、学生の就業力向上を目的としてインターンシップによる就業体験学習を行っています。インターンシップに参加した学生は、様々な事業体において貴重な就業体験を得ることができ、学生の職業意識育成・就業力向上に繋げることができます。

大学主催でインターンシップが行われるようになってから10年目になりますが、参加学生は年々増加傾向にあります。参加事業体の新規開拓にも力を注ぎ、今年度は新たに8事業体へ学生を派遣することができました。また、学生が自主的に事業体を探して行う学外インターンシップも数多くの学生が参加しています。その中で8事業体8名の学生が単位認定を申請しました。海外の事業体に学生を派遣する国際インターンシップも行っており、質・量の両面での充実を図っています。今年度は全体で45事業体・75名の学生をインターンシップ生として派遣することができました。

インターンシップはキャリア教育の一環として行っており、派遣前には学内で事前学習を行います。インターンシップを行った後も、報告書の作成指導・報告会での発表など、様々な



面から学生の就業体験をフォローする体制を整えています。また、キャリア教育科目として単位認定されます。

下関市立大学の三つのポリシー完成

学部長 木村 健二 教授

かねてより懸案事項であった、本学のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの三つのポリシーが作成され、9月17日の教育研究審議会において承認、成立をみた。以下、その内容について若干解説したい。

1. ディプロマポリシー

ディプロマポリシーとは「卒業認定・学位授与に関する方針」のことで、いかなる学生を育成して一般社会に送り出すかについて明確な方針を定めようということである。

下関市立大学は、大学の理念や目的で、学生の「学ぶ力」を高めつつ、総合的な知識と専門的な学術を教授し、地域に根ざし、東アジアを中心に広く世界に目を向けた教育を実践することによって、現代社会に適応しうる創造的で教養豊かな高度職業人の育成をめざすとしている。

学科別に育成目標を示すと、経済学科は、①国際・国民経済にかかわる理論・政策・歴史に習熟した経済人、②地域・地方の経済社会にかかわる理論・政策・歴史に習熟した経済人を育成するとしている。国際商学科は、①国際感覚を身に付け、実践的な語学能力を備えた企業人、②商学・経営学に関する理論と実務に習熟した企業人、③情報システムの管理運営能力を備えた企業人を育成するとしている。公共マネジメント学科は、①経営能力を身に付けた行政人、②公共的な調整能力に秀でた企業人、③戦略的マネジメントができる非営利組織人、④まちづくりのノウハウに優れた地域コーディネーターを育成するとしている。

2. カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシーとは「教育課程の編成方針」のことであり、下関市立大学経済学部では、上記のディプロマポリシーに定めた人材を育成するため、基礎教育、教養教育、専門教育の3本柱から成り立つカリキュラムのもとで、体系的カリキュラムを編成している。そのもとで各学科のカリキュラムポリシーを示せば以下の通りとなる。

経済学科は、国際経済、国民経済、地域・地方の経済社会にかかわる理論・政策・歴史に習熟することにより、現代の経済社会への理解を深めることを基本とし、その上で、それがかかえる諸問題に適切に対応しうる「考える力」を養う。国際商学科は、商学・経営学の理論と実学を学ぶことを基本とし、そのうえで、東アジアを中心とした国際ビジネスや、ITを用いた経営管理などに適応できる能力を養成する。公共マネジメント学科の専門教育は、「行政」に関する分野では行財政や政策のマネジメントを、「企業・非営利」の分野では民間組織の行動を中心に、広く人々の公共的生活空間に関わるマネジメントを、「コミュニティ」の分野では人と人とのコミュニケーションのあり方や実践的な「まちづくり」を含めたコミュニティ形成のあり方などを学ぶ。

3. アドミッションポリシー

アドミッションポリシーとは「入学者受け入れ方針」のことで、下関市立大学経済学部の教育理念・目標（前掲）をふまえ、さらに上記のような内容のカリキュラムを提供することから、以下の4点のような学生を「求める学生像」として設定している。①下関市立大学の教育理念と目標を十分に理解している、②社会の多様な問題に関心をもっている、③主体的に学ぼうとする意欲をもつ

ている、④個性的でチャレンジ精神に富んでいる。

各学科別のアドミッションポリシーは、経済学科は、現代社会が当面する社会的、経済的諸問題を学問的に学ぶための基礎学力を備え、さらにそれらの問題の解決に向けて積極的に関与していこうとする意欲を持った学生を求めている。国際商学科は、現代におけるビジネスの世界に興味を持ち、語学能力や情報処理能力などに関する基礎学力を備えた学生を求めている。公共マネジメント学科は、社会が抱える課題に広く関心を持ち、既成概念にとらわれず柔軟に思考し、分け隔てなく様々な人とコミュニケーションしようとし、公共性を意識する学生を求めている。

今後は以上の三つの方針をもとに本学の教育上の各方針が策定され、実施されていくことになる。全文は本学ホームページを参照されたい。

名誉教授の称号授与

坂本 紘二氏、山戸 輝雄氏、山本 興治氏

本学をこの3月に退職された坂本紘二前学長、山戸輝雄前教授、山本興治前教授に、名誉教授の称号が与えられることになり、7月15日の本年度第4回教授会に先だって授与式が行われました。

坂本氏は15年間の在職中、「技術と資源」、「環境」や専門演習、大学院を担当され、また附属産業文化研究所長・学生部長、そして学長として大学行政に尽力されました。

山戸氏は40年間、「哲学」、「哲学概論」、「基礎演習」、「教養演習」などの科目を担当され、また教務部長、附属図書館長などの要職を歴任されました。

山本氏は36年間、「経営学総論」、「労務管理論」などの講義や専門演習、大学院を担当され、附属産業文化研究所長、学生部長などの要職を歴任されました。いずれの先生も、それぞれ長年にわたって独特の方法で本学の教育と研究の充実に尽くされました。今後のご健康とご活躍をお祈りいたします。



左より、山本氏、山戸氏、坂本氏

大学コンソーシアム関門の共同講義開催される

関門両地域に所在する6大学による共同講義7科目が、8月30日より、4科目は西日本工業大学小倉キャンパスで、2科目は北九州市立大学小倉サテライトキャンパスで、1科目は下関の市民活動センターでスタートを切った。7科目のうち「関門学」を内容とする4科目は、「関門の自然環境とそのエネルギー」、「関門地域の歴史・地理・交流」、「関門地域の文学」、「近代関門地域の産業発展」であり、他の3科目は「ESD（持続可能な開発のための教育）入門」、「メディアの現場」、「核兵器の記憶 広島、小倉、長崎をつなぐもの」である。

本学の主催講義は「関門地域の歴史・地理・交流」で、本学の教員（木村・飯塚・吉津）のほか坂本紘二前学長と山口大学の木部和昭教授を招へいし、関門地域の歴史的地理的特殊性によって蓄積された様々な資源を掘り起こし、新たな可能性について探ろうとしたもので、市民をまじえた活発な議論が展開された。

市大生の地域交流

市大生と古寺で Let's Enjoy !!!

教授 吉津 直樹

私のゼミでは、「都市農村交流による地域づくり」をテーマとしており、数年前から長門市俵山地区（組織は「ゆうゆうグリーン俵山」と青海島（同「青海島共和国」）、菊川町嚮井集落（同「貴和の里に集う会」）と交流を続けてきた。昨年度は俵山地区と青海島に8回、菊川町嚮井集落に7回ほど学生と共に出向いた。各地区の様々なイベントに参加するだけでなくお手伝いや意見交換などを行ってきた。そのため現地の住民の方も学生諸君と顔なじみになっておりお互いに気楽に呼びかけあう仲となっている。

このような活動に加えて今年7月に菊川町東中山の浄国寺を利用して何かやってもらえないかという要請が私に持ちかけられた。呼びかけた人は菊川町の活性化に様々な面でリーダーシップをとっておられる村新清胤氏（72才）である。村新氏は数年前までは従業員100名を超える水産加工・流通会社の経営者で東京方面で活躍されていた。会社を退かれて奥様の実家がある菊川町に帰ってこられたのである。かなりの年配ではあるが、さすが元経営者、歳を感じさせない若々しいアイデアマンで菊川町の活性化に欠かせない方である。

持ちかけられた私は3年ゼミ生に活用策を考えてみないかと投げかけたところ、すぐに井上晴暁君が活用策をレポートしてきた。まず現地を知らなければ話にならないということで3年ゼミ生有志を連れて浄国寺に出向き、地域の人達と意見交換を行い活用策を話し合った。当初、夏休み最後の土曜日に寺子屋みたいなものを開き、小学生に勉強を指導する、それが大学生の教員志望者にも実習経験になるので面白いのではないかと提案された。しかし、8月最後の土曜日は菊川町嚮井集落で「子ども塾」が行われることとなったので、日にちをずらして9月5日（日）にイベントを行うこととした。当初は竹トンボづくりを考えていたが、刃物を使うし、竹トンボづくりに長けた人が殆ど居ないということで、予定を変更し、ペットボトルを使っての空気砲づくり、中山溪の森林探検、そこで取ってきた石と葉っぱを使っての工作を行うこととなった。宣伝期間が1週間しかなかったためもあって参加者が7人とやや少なかったが、参加者は全員満足気で学生もホッとしたところである。このようなイベントは小学生のためもあるが、市大生にとっても貴重な体験になっているようである。

今回の企画は井上晴暁君と城戸章吾君がほとんどを取り仕切り、その他3年ゼミ生7人によって分担して行われた。私は彼らを現地に運ぶことぐらいで殆ど口をだしていない。今回の経



過を見ていて学生の積極性にはいたく感心させられた。今後はこの寺を拠点にして大学生による落語、演劇、器楽演奏、学習など多様なイベントができればと考えている。

地域インターンシップの夏

教授 道盛 誠一

豊北町栗野の地域課題に取り組むまちづくりグループの活動です。栗野を知る、栗野に学ぶ、の二つが学生たちの立てた今年

度テーマでした。4月以降の活動の延長線上でいくつかの取り組みを夏季休業期間にも行いました。それについても、栗野川共生会の会員の方々の協力には並々ならぬものがあります。学生たちが単なるお客ではなく共に地域課題を語り、考え、解決策を模索する仲間たりえるように、助言や指導をいただいています。

8月7日には基礎演習学生を率いて、栗野ツアーを実施しました。3、4年生が栗野川共生会と企画を練ったものです。10年以上続けられている「ふれあい市場」、再利用が検討されている旧保育園、栗野地区の集住地である浦地区を視察し、丁寧な解説も受けられました。8月24日は昨年に引き続いて地藏盆に有志数名が泊まり込み参加し、今年は鮎の掴み取りもシジミ採りも体験できました。栗野伝統行事の観月会（9月22日）に初めて招待され、交流も本格化したとの思いを深くしました。いよいよ小売店舗再生計画と保育園施設再利用計画に関わっていくことになります。



水泳同好会

岡山県学生選手権 50 m自由形一位、100 m自由形 一位 / 全国
国公立大学選手権水泳競技大会 50 m自由形・100 m自由形出場

●文化会サークル

よさこいダンスサークル

さのよいファイヤーカーニバル 大賞

吹奏楽部

第49回全日本吹奏楽コンクール山口県大会 大学A部門 銀賞

平成22年度春季大会成績

●体育会サークル

準硬式野球部

春期リーグ中国地区I部優勝 / 全国選手権大会出場

硬式庭球部

関北インカレ男子シングルス優勝 中溝宏司 男子ダブルス優勝 木
島隆裕・下野幸生

フットサル部

全国大学選手権大会山口県大会優勝 / 中国大会優勝 / 全国大
会出場

卓球部

中国学生卓球選手権春季大会 女子シングルス7位 道下知香 (全
国大会出場権獲得)

バドミントン部

中四国春季バドミントンリーグ戦 3部全勝優勝 2部昇格 / 北九
州・下関バドミントン大会 男子ダブルス優勝 末廣光・濱昂典

柔道部

中国四国学生体重別大会 73kg 準優勝 (全国大会出場権獲得)

少林寺拳法部

平成22年度中四国学生大会 男子初段の部 1位 岩下雄一郎・當
田英貴 団体の部 1位 / 第38回山口県少林寺拳法大会男子段
外の部 1位 磯田治伸・松本匡史 女子初段の部 1位 射場愛美・
森真矢

●大学院経済学研究科入学試験を実施

2010年9月11日(土)、大学院経済学研究科の2011年度入学試験を実施した。()内は昨年度実数。

専攻	選抜区分	募集人員	志願者	受験者	合格者
経済社会システム	一般	5名	- (4名)	- (4名)	- (2名)
	派遣社会人特別	若干名	1名 (-)	1名 (-)	1名 (-)
	交流・協定校特別	各校1名	- (-)	- (-)	- (-)
国際ビジネス コミュニケーション	一般	5名	2名 (4名)	2名 (4名)	2名 (4名)
	派遣社会人特別	若干名	- (-)	- (-)	- (-)
	交流・協定校特別	各校1名	1名 (1名)	1名 (1名)	1名 (1名)

派遣社会人特別選抜で合格した1名は、2011年度より導入される「実学を重視した社会人教育プログラム」を選択している。これは、社会人が「特定の課題についての研究成果」を提出して学位審査に合格すれば修士の学位が授与される制度である。

なお、大学院研究科では第2次募集を実施する。募集人員、試験日程などは次のとおり。

専攻	選抜区分	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
経済社会システム	一般	若干名	2011年 2月14日(月) ~2月18日(金) 17時必着	2011年 3月12日(土)	2011年 3月21日(月) 10時
	派遣社会人特別	若干名			
国際ビジネス コミュニケーション	一般	若干名			
	派遣社会人特別	若干名			

サークル紹介 フットサル部

部長 中村 尚樹 (経済学科3年)

ペルセヴェランテ。通称ペルサ。

私たちフットサル部の愛称です。

この言葉には粘り強く、諦めないという意味があり、昨年度卒業した先輩方が創部の際につけました。私たちフットサル部は創部から4年、現在部員85名で活動しています。監督、コーチのいないフットサル部は、練習メニューの考案や様々な問題を自分たちで解決しなくてはならず、その分、チームワークと充実度がとても感じられます。

練習は週に3日行い、長期休暇はほとんど毎日行っています。その成果もあって、県リーグでは首位争いを繰り広げ、今年の夏には厳しい予選を勝ち進み、全日本大学フットサル大会に出場することができました。残念ながら、その全国大会ではレベルの高さを思い知らされ、全敗という悔しい結果に終わりました。しかし全国のレベルを肌で感じられたことは、とてもいい経験になりました。

来年も全国の舞台に立ちたい、そしてひとつでも多く勝ちたいと強く思っています。

そのために私たちフットサル部は、粘り強く努力を続けていきたいです。



春学期の公開講座を実施いたしました

春学期公開講座一覧表と受講者数

- ①中国語さらにもう一步（読解・文法編）
～初級者向けの中国語講座～ 参加者延数……156人
- ②中国語さらにもう一步（発音・会話編）
～初級者向けの中国語講座～ 受講者延数……156人
- ③長崎市・呉市の斜面地の生活と下関
（唐戸サテライトキャンパスにて実施） 受講者延数……13人
- ④初心者のためのパソコン入門
～クラウドを活用して広がるコンピュータの世界～ 受講者延数……40人
- ⑤高杉晋作と坂本龍馬
（唐戸サテライトキャンパスにて実施） 受講者延数……26人

今年度より、秋から実施の公開講座に加えて、春学期公開講座を実施することとなり、老若男女問わず、多くの方々に参加していただきました。講座には語学、パソコン、今話題の坂本龍馬など、バラエティーに富んだ内容になっており、どの講座も定評がありました。秋学期には、学生とともに学ぶ授業開放2講座と公開講座8講座を開催いたします。より多くの方々のご参加を期待しています。

秋学期 市民大学公開講座

イギリス歴史の旅：パート2 ～制度の文化史～			
講師：高田 実 教授	11/22～12/27 全6回	受講料 3000円	定員 40名
就職活動のための英語 ～スキルアップ、転職をしたい人のために～			
講師： Kristen Sullivan 講師 Paul Collett 特任教員	10/6～12/8 全9回	受講料 5000円	定員 20名
品質に関する企業戦略の概観 ～消費者が求める品質とは～			
講師：森 邦恵 准教授	11/9 全1回	受講料 無料	定員 無し
漢詩歳時記 一秋・冬篇一			
講師：武井 満幹 講師	10/2～1/23 全9回	受講料 5000円	定員 40名
起業入門 ～事業の起こし方とその運営の研究～			
講師：平池 久義 教授	10/2～11/27 全6回	受講料 3000円	定員 10名
山口歴史ブランド「寛永通寶」 ～日本近世貨幣史を探る～			
講師：櫻木 晋一 教授	10/6～23 全4回	受講料 2000円	定員 20名
広がりを見せる議会改革のうねり ～問われる議員力～			
講師：太田 周二郎 教授	12/6 全1回	受講料 無料	定員 無し
教養総合G ～現代社会におけるライフ・スタイルと健康～			
講師：複数	9/27～1/2 全14回	受講料 無料	定員 無し
ペーパーバックを読む ～読書の秋に英語で挑戦～			
講師：熊谷 美佐子 教授	10/5～12/14 全6回	受講料 3000円	定員 9名
地域論			
講師：吉津 直樹 教授	9/27～1/24 全14回	受講料 無料	定員 無し

文科省「平成22年度 大学生の就業力育成支援事業」に選定される

文部科学省が推進する「平成22年度大学生の就業力育成支援事業」に、本学の「マイスター制と共創力教育による就業力育成」が選定されました。

この取組は、基礎能力として、「共に創り上げる力」の向上を目指す「共創力」、学生の自主的活動支援による「人間力」をそれぞれ高めながら、就業力育成の充実を図る「就業力マイスター制」を通じ、有為な人材を輩出しようとするものです。

「共創力教育」では、教養教育、少人数教育、実習教育を徹底し、「学生の自主的活動支援」は、ボランティア、サークル活動、資格取得など就業力向上に関する学生の自主的活動を支援します。また、「就業力マイスター制」では、金融、生活・福祉、経営情報、公益法人などのパッケージ科目を履修することで、学生自身の将来設計に必要な専門知識を修得することができます。そして、内定後の就業直前教育科目も履修すると「就業力マイスター」の称号が授与されます。

本学は従来のプログラムに加え、今後、さらに充実したキャリア教育を行っていきます。

平成22年度特待生

5月31日(月)、平成22年度特待生の表彰式が行われました。



成績優秀者に認定される特待生として選出されたのは、2、3、4年生の各4名ずつに加え、留学生2名の計14名。特待生には、授業料の半額免除や奨学金が与えられます。

春学期卒業式

9月30日(木)、学術センター3階会議室において、平成22年度春学期卒業式が行われ、経済学科18名、国際商学科20名、あわせて38名と



大学院経済学研究科国際ビジネスコミュニケーション専攻1名が本学を巣立っていきました。これで本学の経済学部卒業生は1万5358名、大学院修士課程は72名を数えることになります。荻野学長は卒業生に対し、高い志を持ち、決してあきらめることなく、コンセンサスを持つというはなむけのことばをかけられました。

行事記録(2010年7月～10月)

- 7月11日(日) オープンキャンパス
- 24日(土) オープンキャンパス
- 31日(土) 大学院修士論文中間発表会
- 8月2日(月) 春学期定期試験(～10日)
- 10日(火) 消防訓練
クリーンキャンパスデー
- 11日(水) 追試験日
- 20日(金) 卒業論文提出締切(春学期卒業生)
- 30日(月) 科目等履修生受付(～9月3日)
大学コンソーシアム関門担当授(～9月3日)
- 9月11日(土) 大学院選抜一次入試
- 24日(金) 春学期成績配付
- 27日(月) 秋学期授業開始
- 30日(木) 春学期卒業式
- 10月3日(日) ミニオープンキャンパス
- 9日(土) 第2回中国語スピーチコンテスト
- 16日(土) 中国人留学生バスツアー
- 22日(金) 大学祭準備
- 23日(土) 大学祭(～24日)